

アップスタート ホールディングス(UPST)

【セクター】 消費者金融

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

2012年にグーグルの元幹部などが創業した、クラウドベースの人工知能（AI）融資プラットフォームを提供する会社です。教育や雇用などの非伝統的な変数を使用するAIによって消費者の信用力を評価し、提携先の金融機関が融資を実行します。100以上の銀行および信用組合で利用され（2023年11月6日）、280万件以上、350億ドル以上の融資で使われた実績をもちます（2023年9月末）。同社は2020年12月16日に公募価格20ドルで新規上場しました。

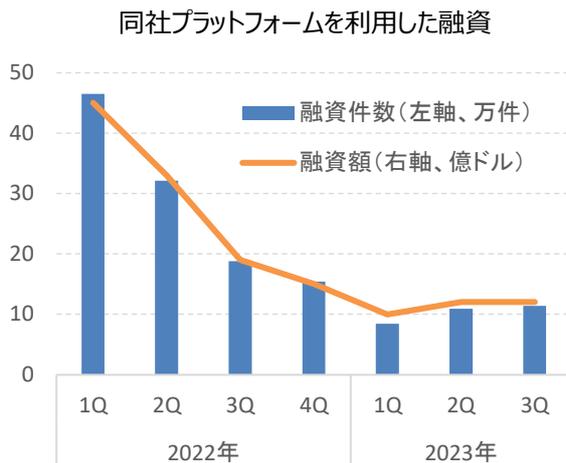
【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	849	137	1.44	0.00	9.6	24.5	44.3
22.12期	842	-75	-0.90	0.00	8.3	-14.7	34.7
23.12期（予）	518	-47	-0.69	0.00	7.4	-7.0	

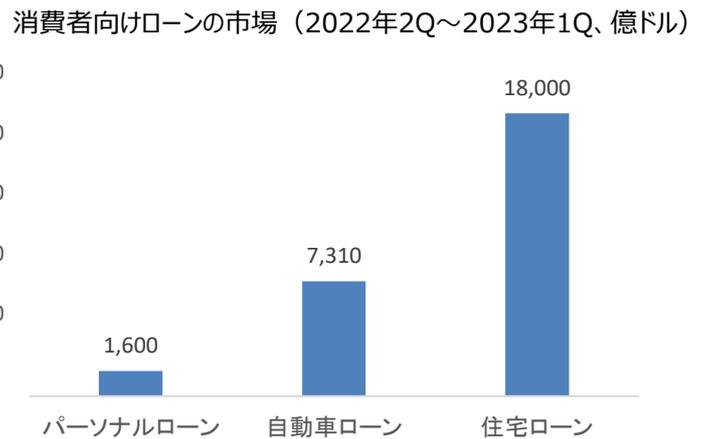
※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】



（出所）会社資料よりSBI証券が作成



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

融資の申し込みは同社サイトの「Upstart.com」または金融機関のウェブサイト（同社のプラットフォームが利用されていることは隠されます）から行われます。同社の売上は、融資の実行時に入る照会フィー、プラットフォームフィー（金融機関のサイトでプラットフォームを利用した場合のフィー）、融資残高に対して年間0.5～1.0%が支払われるサービシングフィーからなります。消費者向けの融資市場は巨大で、AIによる融資の有効性が確認されれば、同社の対象市場は非常に大きいと考えられます。現在パーソナルローンが主力ですが、自動車ローンへの開拓を進めています。

【見通し・注目点】

7-9月期決算は売上が135百万ドルで前年同期比14%減、市場予想を4%下回り、調整後EPSは0.05ドルの赤字で前年同期の0.24ドルの赤字から改善するも、市場予想の0.02ドルの赤字を下回りました。提携先金融機関による融資件数は11.4万件、融資額は12億ドルで前年同期比34%減でした。10-12月期のガイダンスは売上が135百万ドル、調整後純利益が14百万ドルの赤字、調整後EBITDAはゼロ程度です。CEOは「もちろんもっと速く成長したいが、（現在のマクロ環境を勘案すると）保守的モードで営業したほうが賢明な時期だ」とコメントしています。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。